

やまぐち学園だより

やまぐち学園教育目標:発見し、はぐくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像:よよい未来を共に創り出す人間

第6号 2020年11月25日(水)

山口大学教育学部附属幼稚園

〒753-0070 山口市白石三丁目1番2号 TEL 083-933-5960

山口大学教育学部附属山口小学校

〒753-0070 山口市白石三丁目1番1号 TEL 083-933-5950

山口大学教育学部附属山口中学校

〒753-0070 山口市白石一丁目9番1号 TEL 083-922-2824

人と人のつながり～「残心」より～

附属山口小学校教頭 中村裕司

新型コロナウイルス感染症という未曾有の状態の中、このおよそ1年の間で、私たちの社会は大きく変わりました。大きく変わりがながらも人が生きていく上で変わらず大切なことは、人とつながることです。物理的に会うことが困難な現状において、いかに人とつながっていくのか、人とのつながりの質をどのように高めていくのが大切だと考えているところです。

さて、みなさん「残心」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、「残心」は、武道の世界に伝わる言葉で、「残身」や「残心」と書くこともあります。コロナ禍の人と人がつながりにくい現状において、この「残心」はとても大切な言葉であると感じています。理由は、「残心」という言葉に二つの意味があると考えているからです。その一つ目は責任です。この二文字を逆に読むと「こころをのこす」となりますが、その意味は「心を途切れさせない」ということです。つまり、何に取り組んでも、「自分が行ったことに心を残して責任をもち、やりっ放しにしない」という教えに通じるものです。二つ目は感謝です。武道は、使用する道具があったり、練習する場所があったりするからこそ、自分を鍛えることができます。当然、練習後には使った道具を磨いたり、使った場を掃除したりして、お礼の気持ちを表します。また、指導してもらった先生や共に努力を重ねる仲間がいるからこそ、技術を磨き心を鍛えることができます。だから、指導してもらった先生や試合・練習相手への「感謝や思いやりの心」を大切にします。

このように「自分のしたことに責任をもつこと」「ものや人への感謝・思いやりの心」こそ、武道の世界で大事にされてきた「残心」です。この残心は、日常生活においても通じるものといえるでしょう。人と人がつながるためには信頼し合うことが必要ですし、だからこそ、「残心」はとても大切な心持ちであると思うのです。

この「自分のすることに責任をもつ」という具体的な行動として「マナーを守る」ということがあると思います。特に「登下校のマナー」については、本学園は、子どもたちが様々な地域から、徒歩やバス、電車など様々な方法で通学しているため、より大切にしたいところです。子どもたち自身も、登下校について課題を感じており、この課題を解決するため、小学校では、学校生活向上委員会を中心に登下校のマナーを話し合いました。子どもたちは、道を歩く時には「横に広がらない」「走ったり、大声を出したりしない」やバスの中では、「お年寄りや地域の方、低学年に席をゆずる」「大声を出したりしない」「静かにする」などのめあてを立てています。これらのことは、これまでも取り組んできているところですが、まだまだ不十分であり、日々、さらに意識して行動していきたいと思っています。

「ものや人への感謝の心」という具体的な行動では、掃除が挙げられます。子どもたちは、毎日教室で学習したり、グラウンドで運動や遊びをしたりする中で、学校の施設や道具を使用しています。使用すれば、当然、使用した場所が乱れたり、汚れたりしますが、それを自分たちできれいにする活動も残心です。掃除の時間に黙々とだまってきれいにします。掃除を一生懸命するということは、自分たちが使用したことをそのままにしないで責任をもつことであるといえるし、使ったことに対して感謝し、次に使う人が使いやすいようにするという他者を思いやる活動であるともいえるでしょう。本学園では、この大切な取組である掃除を昨年度、小学生と中学生が関わり合って取り組みました。関わり合いのある清掃活動は、ものや人への感謝の心をより高めるものだと思います。今年度は、更に関わる機会を増やし、中学生が小学生を教え、小学生が幼稚園児を教えるなどの活動を進めていきたいところでしたが、コロナ禍のため、中々実践できていないのが現状です。しかしながら、感染症対策を講じた上で、清掃活動についても関わり合いをもたせたいと考えているところです。

最後に「思いやりの心」についてです。「思いやりの心」の第一歩はやはり「あいさつ」だと考えています。今年度は、現在のところ、学園全体と取組として2回「あいさつ運動」に取り組んでいます。登校時間に中学生が小学校に来たり、小学生が中学校に行ったりして、あいさつを交わしました。登校してきた子どもたちは、多くの中学生のあいさつにとっても嬉しそうでした。また、中学校に向かった小学生も嬉しそうにあいさつをする姿が見られました。学校内だけではなく、学校外や日常生活の中でも自然に交わしていくことで、このあいさつの輪を地域の方々とのつながりに広げていくことができたらと考えています。

ここで紹介した本学園の取組は特別新しいことではありませんが、一つひとつの取組の質を高めることで、より人と人とのつながりを強くするものであると思います。本学園のめざす人間像は「よよい未来を共に創り出す人間」ですが、「共に創り出す」ためにも、これからも「人と人とのつながり」を大切にしていきたいと考えているところです。

【附属幼稚園】



頂いたかまぼこ板を使って

附属特別支援学校のお兄さん
お姉さんにお世話になって

10月26日に「かまぼこ板贈呈式」を行い、長門市を中心に木育活動されているNPO法人「人と木」（岩本美枝理事長）からかまぼこ板2万枚を寄贈していただきました。毎年この時期に木工の端材を園児のくぎ打ち用に下さっていた教育学部岡村吉永教授（前附属山口小学校校長）が同法人と園とをつなげてくださいました。園児たちは積み木や木工制作、どんぐりころがしコースなどにも活用して楽しんでいます。

また、附属特別支援学校から招待され、高等部が育てたサツマイモの収穫に行きました。お兄さんのお姉さんに教わりながら大きなサツマイモがたくさん収穫でき、ハロウィーン用のカボチャもいただきました。

【附属山口小学校】



授業参観では、一生懸命に学ぶ姿がありました。



中学生と一緒にあいさつ運動を行いました。



4・5年生が自然体験学習をしました。

感染症拡大防止の対策を講じながら、現在、学校では様々な行事を行っています。4・5年生は国立徳地青少年自然の家で自然体験学習をしました。焼き板細工を作るなど、学校とは異なる体験をすることができました。また、幼小中での交流活動においては、山口中学校前で中学生と共にあいさつ運動を行いました。これからも、状況を見極めながら、工夫して様々な活動を行っていきたいと考えています。

【附属山口中学校】

今回は各学年の11月を紹介します。3年生は山口大学で「学年祭」を行いました。午前中はステージを使った学級ごとの発表、午後はクラスマッチで楽しい思い出を作りました。

2年生はチューリップの球根を植えました。4月、新1年生が入学する時季には色とりどりのチューリップが新入生を出迎えることでしょう。

1年生は後期テストに向けて学年全体で取り組みました。生徒が講師役を務める「わっしょいゼミ」が行われ、テストに向けて意識を高めることができました。



3年生は学年祭後、受験へ気持ちを切り替えて放課後の補習にも参加しています。写真は校長先生の課外授業の様子です。



チューリップの植えつけを行う2年生。来年度の附中を引っ張る2年生の手で、新年度への準備が少しずつ始まっています。

「わっしょいゼミ」の1年生。教える方も教わる方も真剣な表情で頑張っていました。

